

平成 22 年度 大学院生出張授業プロジェクト (BAP) の活動報告

鎌田 耕平^{1*}、白川 慶介²、石川 遼子³、他 BAP members

¹ 東京大学大学院理学系研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センター

² 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

³ 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻

大学院生出張授業プロジェクト (BAP) は、主に東京大学の大学院生からなる学生団体である。大学で生み出された知を社会に還元する活動として、我々は母校での出張授業を希望する大学院生を募り、昨年度約 30 件の出張授業を実施した。今年度も活動を継続し、すでに 5 件の出張授業が実施され、さらに数件の実施が決まっている。また出張授業を全国に広げるため他大学の大学院生や若手研究者との連携も開始した。本講演ではこれら今年度の活動経過を報告する。

I. INTRODUCTION

大学院生出張授業プロジェクト (BAP)¹は、東京大学大学院理学系研究科の学生団体 0to1²の有志が 2008 年東京大学学生企画コンテストに応募し、優秀賞を受賞したことによって結成された学生団体で、大学院生による高校 (大学院生の母校) への出張授業を進めている。BAP はこれまでの出張授業のノウハウを活かし、母校での出張授業を行いたいと考える大学院生がなるべく低負担で出張授業を行えることをめざし活動している。

BAP は 2009 年度よりその活動を東京大学全学に広め、これまで宇宙論や、宇宙科学、生物学、ロボット工学、宗教学といった様々なテーマの出張授業を 30 件以上行った。受講した高校生は 1100 人を超えている。さらに BAP は BAP の持つ情報やノウハウを共有することによって、こういった大学院生による出張授業などのアウトリーチ活動を日本各地の大学に広めたいと考えており、いくつかの大学への情報提供を始めている。

本集録の構成は以下のとおりである。第 II 章で BAP の System を紹介し、これまでの実績を示す。第 III 章では他大学への情報提供の試みについて説明する。第 IV 章で今一度本講演を概観する。

II. SYSTEM

BAP における出張授業は、以下の 4 つの段階に分けられる。

- A. 説明会
- B. 高校との交渉
- C. 授業決定から本番に向けての準備
- D. 授業本番と反省

以下ではそれらを順を追って説明する。BAP ではこれまでの出張授業のノウハウを反映させた「出張授業虎の巻」という冊子を作成している。BAP 講師はこれを参照し、出張授業実施にむけて準備を進めて行くことになる。

A. 説明会

BAP では年に数回、「自分の研究の面白さを人に伝えたい」「母校の後輩に研究者という道があることを教えたい」と思いながら、「どうやってよいか分からない」「実際どのような話をすれば良いのか不安だ」という思いを抱える大学院生を対象に説明会を開催している。そこで BAP のやり方を理解した上で「講師登録」をした大学院生が、これから BAP 講師として出張授業の準備を進めて行くことになる。講師登録した講師には、これまでに出張授業を経験した BAP member が必ず一人「相談員」としてつき、困ったときに相談をする。BAP のミーティングで相談することも推奨される。

B. 高校との交渉

出張授業の実現のためにまず始めにすることは、高校との交渉である。³まず、コンタクトを取りやすい先生 (担任の先生、部活の顧問の先生等) に連絡をする。その先生がそのまま窓口となってくれる場合もあれば、進路指

* kamada@resceu.s.u-tokyo.ac.jp

¹ <http://sc.adm.s.u-tokyo.ac.jp/bap/>

² <http://sc.adm.s.u-tokyo.ac.jp/0to1/> : 2008 年以前は 0to1 の下で出張授業を数件行った。

³ BAP では交渉開始前に講師の指導教員に BAP で活動をする事に対する許可を取る事を講師に求める。

導担当の先生に取り次いでくださる場合もある。高校側の交渉してくださる先生が決まったら、実施の可否、内容等に関しての交渉の開始である。即 OK の場合もあれば、高校側の年次予定との兼ね合いで即答できない場合もあるし、断られる場合もある。出張授業が出来ることになったら、授業日程、内容、形式を交渉して決定する。これまで BAP で行われた出張授業は進路指導から研究紹介まで、参加者も高校 1 年生から 3 年生まで幅広く、参加人数も 10 人程度から 100 人以上と様々である。⁴

C. 授業に向けて

授業日程が決まったら、二週間前を目処に BAP member の前で練習会を行う。練習会では実際の出張授業を想定して一通りの発表を行った後、参加者からのコメントを求める。練習会にはこれまで出張授業を経験した人やこれから出張授業を行う人が集まって、授業の流れからスライドの一枚一枚まで高校生向けの授業としてより良いものへと改善するようアドバイスをする。練習会が終わった後、練習会で出されたコメントを参考にしてスライドを修正して本番に備える。

D. 授業当日とその後

B. までの準備を終えたら出張授業本番である。BAP では詳しい研究内容を分かってもらうことよりもむしろ大学院生の研究に対する情熱を感じてもらうことを重視している。高校生の反応を見つつ、生き生きと話をすることに注意する。

授業終了後は、受講した高校生、および先生方にアンケートを取る。その後、高校の先生を交えて反省会を行う。授業の良かった点、悪かった点を挙げていただき、今後の BAP の活動の改善へと反映させる。

高校から戻ったらアンケートを集計し、BAP ミーティング内で反省会を行う。アンケートや先生との反省会での授業の良かった点、改善すべき点を BAP 内で共有する。

出張授業を終えた講師は以降の他の講師の練習会や BAP ミーティングへの出席を推奨される。自身の出張授業の反省を、練習会でのコメント、「出張授業虎の巻」の修正という形でこれから行われる出張授業に活かすためである。

2009 年 4 月から 2010 年 7 月末までに BAP で行った出張授業は、計 32 件、北は北海道旭川、南は九州鹿児島に及ぶ。受講した高校生は計 1100 名を越えており、「授業は面白かった」「大学院での研究活動に興味を持った」のように、アンケートに対する回答もおおむね良好である。また、高校の先生の反応も「大学院生の情熱が伝わってきて良かった」という回答が多く見られ、BAP の目的は達成されていると考えられる。

III. BAP SYSTEM EXPORT

BAP は、「大学院生による出張授業」という活動を全国に広げることを大きな目標している。その一環として、BAP の情報、ノウハウを共有する形で BAP 同様の組織を全国の大学でその大学院生に立ち上げる手助けをしようと考えている。現在、東北大学と京都大学ではその芽が出つつあり、特に東北大学では既に出張授業の開催が決定している。BAP はそれ以外の大学でも興味がある大学院生からのコンタクトを歓迎している。

IV. CONCLUSION

東京大学大学院生出張授業プロジェクト (BAP) は、東京大学の大学院生による学生団体であり、大学院生の母校である高校へ出張授業を進める団体である。設立以来、32 件を超える出張授業がこのプロジェクトの支援のもと行われ、1100 名を超える高校生が授業を受講した。高校生や受け入れてくださった先生方の反応も上々で、BAP の目的はうまく達成されていると考えられる。BAP は今後もこの活動を東京大学内で続けて行くと同時に、東京大学以外の大学でもこのような活動を行いたいと考える大学院生と協力していきたいと考えている。

⁴ プロジェクターを使った講演が一般的である。